

# 遼寧省の環境対策にみる環境市場の可能性

日本貿易振興会 中国・北アジアチーム  
富山県研修生 林 秀二

パンダが絶滅の危機に瀕している。かつては国土の3分の1に生息していた野生のジャイアントパンダは、現在では四川省のごく一部に生息する1,050匹前後にまで減少している。パンダの繁殖能力が非常に弱いことも影響しているが、環境破壊により主食のササが減少したことが大きな原因とされている。中国は90年代に入り目覚ましい経済発展を遂げる一方で、環境の悪化が進み、生態系の混乱、公害問題などが深刻化している。経済成長と環境破壊が表裏一体であるかどうかという議論はあるが、効率的な生産活動を続ける上で環境対策は極めて重要である。本稿では中国有数の重工業地帯として発展してきた遼寧省における環境保全対策を取り上げ、中国の環境市場とその可能性を考察する。

## ～水質保全対策を本格化～

遼寧省は中国東北部に位置し、大型国有企業を中心とした重工業地帯として発展してきた。その一方で、老朽化した設備を抱える国有企業が多く、これまで汚染物質対策は見過ごされてきたのが実状である。しかし近年は、省ぐるみの積極的な環境保全への取り組みが注目されている。

遼寧省中央部を分断するように流れる遼河は全長約1,345キロメートル、その流域にある大都市の工場・家庭排水が水質を悪化させてきた。遼河で行われた52カ所の水質調査では69.3%が劣V類（国家水質基準で汚染度が最も高い）という結果が出ている。遼寧省では「遼河流域水域防止条例」などを施行し、都市部の排水処理場の建設、汚染処理に対する企業への技術指導など本格的な水質保全対策を進めている。その結果、99年の未処理工業排水総排出量は11億6,000万トン（前年比6,000万トン減）、COD（化学的酸素要求量）排出量は34万5,000トン（同2万6,000トン減）と減少している。さらに、渤海の汚染対策として、2000年7月1日からリンを含む洗剤の販売・使用を禁止し、海水の水質保全対策を進めている。

## 2010年までの遼河流域水質汚染対策投資額

計画名	投資予定額(億元)	件数(件)
工業整備プロジェクト	35.27	118
都市部汚染処理工場建設	98.17	24
生態環境建設工事	12.80	28
総計	146.24	170

[出所] 遼寧省環境保全局 1元=約13円

## ～進む大気保全対策～

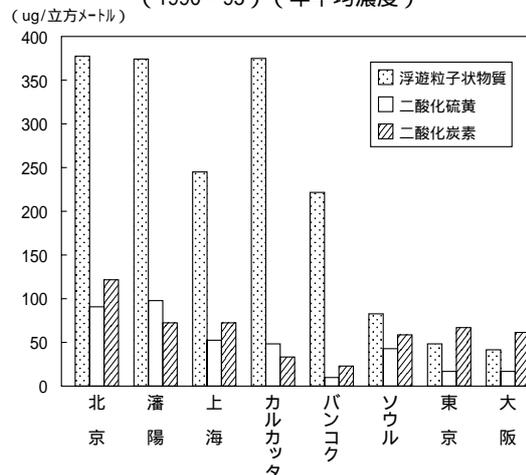
水質保全と並んで環境対策の重点が置かれているのが大気汚染対策である。同省は深刻化する大気汚染対策として、都市部にある小型石炭ボイラーの石油・ガス燃料への切り替え、住宅地区や工業地区のボイラー集約化などを進めてきた。98年からは省内全域で有鉛ガソリンの販売と使用を禁止し、主要都市では車の排気ガス検査を実施している。99年の工業排気総排出量は8,947億6,000万立方メートル（15億立方メートル減）、灰塵の総排出量は62万1,000トン（同12万2,000トン減）と減少している。遼寧省は、今後は酸性雨の原因とされる二酸化硫黄対策として抑制地区の指定、煤煙排出の取り締りなどを進めていくとしている。

## ～広がる環境市場～

現在、中国では国有企業改革の進展により人員削減が進められ、雇用環境が厳しくなっている。このため、環境関連産業はIT産業と並び新たな雇用を創出するものとして注目されている。瀋陽市では環境関連企業に対して税制面での優遇策を実施しており、市内の環境保護関連企業・事業単位はこの1年間で50以上も増え、現在は約200社が設立されている。中国の環境保全規制や政策がかなり整備されたとはいえ、現場における汚染処理設備の普及はこれからである。環境関連産業は日本を含む外資企業にとって大きなビジネスチャンスにつながる可能性を秘めている。

遼寧省にも希少種となった野生動物が生息している。人と野生動物が共存できる環境の整備のためにも、国境を越えた協力への期待は大きい。

アジア主要都市の大気汚染状況  
(1990～95) (年平均濃度)



[出所] World Bank 「1999 World Development Indicators」より作成